

本体品質重視の中国、許容価格の上限は5万3千円

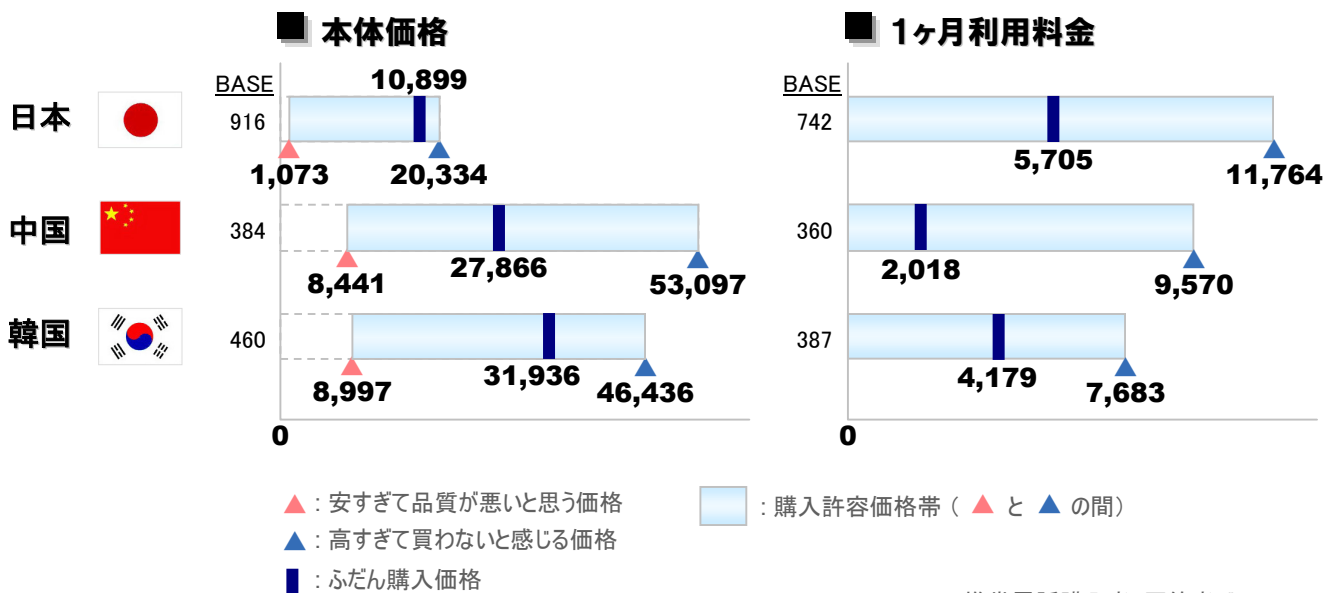
前回の仕事と情報への意識の調査において、情報通信機器へのニーズの高さは3カ国共通であることが確認された。今回は、「携帯電話」についての調査結果を報告する。

携帯電話の受容価格について、円換算して3ヶ国の比較を行った(上図)。まず、携帯電話本体の受容価格についてみる。本体の平均購入価格は、日本が最も安く1万円強であるのに対して、中国2.7万円、韓国3.2万円と3倍程度の開きがある。また、日本の許容価格の幅は狭く、中国と韓国の2分の1程度である。次に、1ヶ月利用料金の受容価格についてみてみると、ふだんの利用料金、上限の料金ともに日本が高い。日本ではNTTドコモとKDDIのポケット料金制度によって通信料金の低価格化が進んでいるが、まだ高い水準にあるようだ。日本の携帯電話料金には、イニシャルコストが低く、ランニングコストが高いといった偏りがあることが再確認された。

携帯電話を選ぶときに高品質と低価格のどちらを重視するかについて、3ヶ国の比較を行った(下図)。中国では、品質重視する人の割合が79.2%と日本と韓国よりも20ポイント以上高く、携帯電話本体自体の価値が高いことがうかがえる。

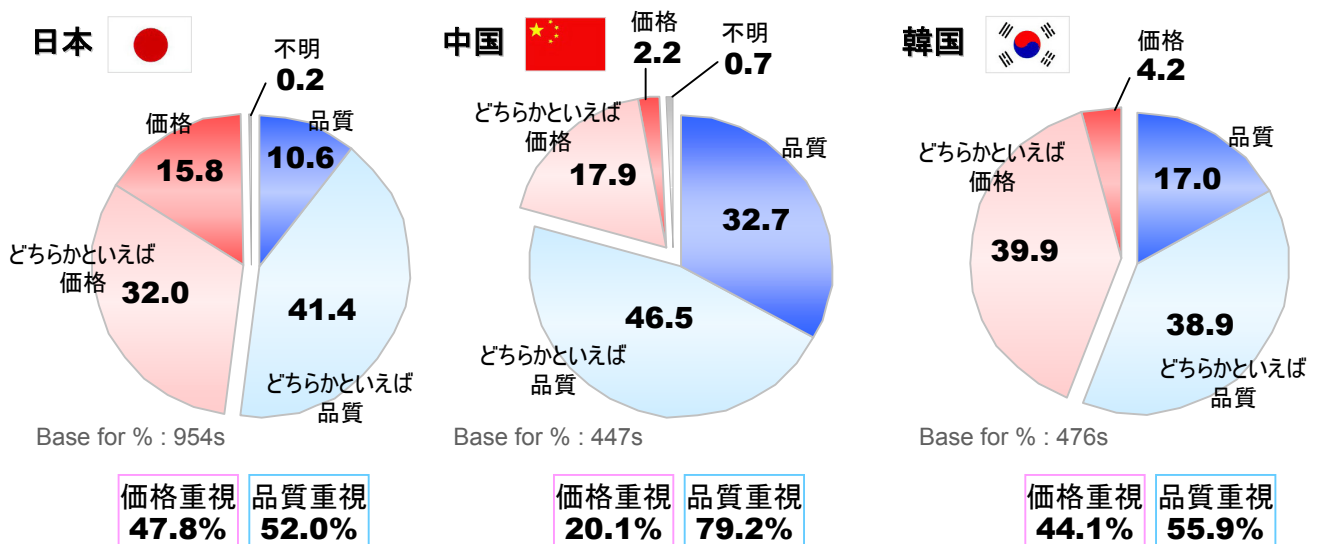
携帯電話の本体価格と1ヶ月利用料金

(円)



高品質と低価格のどちらを重視するか

(%)



携帯電話所有者ベース Base for % : 1,877s